

(1)～(17)はすべて、前述した一二世紀前葉の土器群を含む黒褐色土層から出土している。(1)～(3)の木簡の意味は判然としない。(4)～(15)は将棋の駒で、この一二点の他に同形で文字の判読できないものが二点あり、都合一四点出土している。(16)は習書で「歩兵」を連書している。参考までに掲載した墨画はこれらの木簡と同一層より出土したものである。箱あるいは枠の側板と思われる部材(127×40×6)の片面に女性の全身像が描かれている。ふくよかな顔立ちの描写であるが被り物・衣装・履物は判然としない。この他に重ね書きされた絵画風のものが一点、そして筆ならしのような墨の残るもののが一点あり、墨書・墨画の資料は合計二一点を数える。

当調査地点の遺跡としての性格は確定できないが、その位置や年代、そして遺物の内容よりみて、初代藤原清衡あるいは二代基衡にかけての中尊寺造営・維持に関わる僧侶や工人の存在が想起される。現在のところ平泉町内において、確実な一二世紀前葉の遺構・遺物の検出事例は、本例を除くと皆無であり、下層の一括遺物は良好な資料となっている。

## 9 関係文献

平泉町教育委員会『特別史跡中尊寺境内金剛院発掘調査報告書』  
(一九九五年)

(及川 司)

# 木簡研究第一四号

## 卷頭言

八木 充

## 一九九一年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京左京二条二坊坊間路西側溝 平城京東市跡  
推定地 唐招提寺 藤原京跡 飛鳥池遺跡 四条遺跡 長岡京跡(1)  
長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 遠所遺跡 木津川河床遺跡 大坂城跡  
住友銅吹所跡 桑津遺跡 竜華寺跡 高櫻城跡 堺環濠都市遺跡  
屏風遺跡 長田神社境内遺跡 宅原遺跡 祐狹遺跡(1) 祐狹遺跡(2)  
(旧坪井遺跡) 光明寺遺跡 西河原森ノ内遺跡 西河原遺跡 湯ノ  
部遺跡 石川条里遺跡 内匠日向周地遺跡 小茶円遺跡 富沢遺跡  
多賀城跡 円福寺遺跡 田道町遺跡C地点 上荒屋遺跡 山田郷内  
遺跡 稲城遺跡 吉野口(鯉山小)遺跡 三日市遺跡 長登銅山跡  
空港跡地遺跡(第3工区) 雀居遺跡 興善町遺跡

## 一九七七年以前出土の木簡(一四)

平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次) 上田部遺跡  
郡家今城遺跡 郡家川西遺跡 じょうべのま遺跡 高瀬遺跡  
考古資料としての古代木簡  
八幡林遺跡等新潟県出土の木簡  
木上と片岡  
下級国司の任用と交通——一条大路木簡を手がかりに——  
「敦煌漢簡」研究の現状と課題

彙報

頒価 四五〇〇円 〒五〇〇円